

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700323		
法人名	株式会社 翔里		
事業所名	グループホーム 翔里 壱番館		
所在地	〒859-5512 長崎県平戸市津吉町1051		
自己評価作成日	平成 23 年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成23年 5月 18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成 23 年 2 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四方に広がる農道と山に囲まれた景色の中に、以前、病院であった建物を改築してオープンした。廊下・洗面所・洗濯室・浴室などゆとりのあるスペースになっており、気分もゆったりとなる。外観は、病院の建物だったということもあり、以前の外部評価訪問時、冷たい感じがすると指摘を受け、施設周り、玄関にプランタンに花を植え置いている。しせつに登って来る所にも花を植えたりして、工夫している。掃除は、利用者様が床に寝転がられても大丈夫なくらいに、毎日床拭きを手で行っている。裏には、畑があり、季節ごとに花や、野菜を作っている。運営理念の中に「心の目」とうたっているが、利用者様の思いに少しでも近づけるよう「心の目」をもって支援していている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の理念の中に「心の目」を掲げられ、利用者の見えない部分を喜びや安心に繋げるといふ、代表者の思いを全職員で実践しよう心がけ、日々努力している。管理者や職員は利用者一人一人の個性や入居前の生活環境を把握し、利用者本位のケアの実践をされている。広くゆとりのある建物は1階(壱番館)、2階(弐番館)の2ユニットで行事の際は合同で行う事もあり、ボランティアの方が来られると、利用者ももてなしの気持ちを表し、表情に変化が見られる。職員は各ユニットの利用者の状況把握もされお互いの交流の場となっている。また、大浴場には身体に刺激を受けながら、気持ちよく入浴できる特殊対流バスがあり利用者の楽しみの一つとなっている。職員に地域住民が多く、利用者は地元の言葉で会話し、笑顔で穏やかな雰囲気の中過ごされており今後も期待できる事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時、申し送り等が終わった後、運営理念を唱和し、「職場の教養」という冊子を用いて感じたことや思いなど話し合っている。それらを意識しながら介護業務にあたっている。	倫理研究書を毎月送付してもらい管理者、職員は毎朝唱和している。全職員がサービス提供の事と照らし合わせ、運営理念の「心の目」を通して介護の実践につなげられている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が日常的に来られたり、施設側から日常的に出かけて行ったりというところまでは出来ていないが、地域のスーパーに買い物に出かけたり、ドライブに出かけることはある。高齢者との交流学習の一環として毎年行っている。又、保育園からの慰問も、1ヶ所だけでなく別の保育園からも慰問していただいた。	事業所として自治会には加入していないが、地域行事には案内があり参加している。老人会開催の介護に関する講演に出向く事もあり、中学生の体験学習で交流があり専門学校のボランティアの受け入れも予定している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の会合で、グループホームの事、認知症について説明を行う機会を頂いた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げた検討事項、懸案事項について次の会議で取り上げる事もあるが、一つ一つ積み上げるところまでは至っていない。会議の内容について職員には、単発的に報告しているがその内容について話し合う場などは、現在ない。平成22年度は、3回の開催のみとなった。	本年度の運営推進会議は、2ヶ月1回の開催予定が2月、6月、9月と3回の開催となった。市の担当者、民生委員、利用者家族が参加され、事業所から利用者の現状報告、活動報告を行い、意見を頂いている。	参加者のメンバーが変わり、新たな意見、質問が出てきたので取り組みが出来ていなかった課題の早急の対応に期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市町村担当者の方が見えていただいている。その場での情報交換はおこなっているが、密に連絡が取れているとは言えない。市町村担当者へ、困難事例について相談を行ったが、情報を得たり、解決には至らなかった。	市町村担当者は、運営推進会議に出席されており、相談やアドバイスをいただけるよう日頃から書類は郵送することなく、市役所に出かけて、積極的に交流を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で身体拘束について話し合い、理解したうえで最低限の身体拘束を行っている。しかし、利用者様の状態を常に観察しながら状態に照らし合わせて行っている。	身体拘束は職員全員理解しており、言葉かけが、抑制や行動制限になっていないか常に話し合っている。利用者の状態変化があり車椅子使用であるが常用しないケアの取り組みを考えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について勉強会などで理解する機会が取れていない。今後、学ぶ機会を持つ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について学ぶ機会がもてていない。施設内勉強会、各部署でのミーティングなどで機会を持つようにしていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り説明を行っている。利用料金については特に詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には、時間をとって家族とのコミュニケーションを取り、要望などさりげなく聞き出すように努力はしているが意見の抽出は出来ていない。アンケート調査は行っていないが今後検討していく。	家族の面会時や遠方の方には電話で、利用者の日常の様子を伝え、要望や意見が出やすい環境作りに努めている。	家族には年間を通した行事計画をお知らせしたり、事業所の情報提供を積極的にい行い意見交換の機会作りに期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを毎月1回は行い、代表者の方針などを話された後、意見をざっくばらんに話せるようにはしているが、意見はなかなか出てこない。又、各ユニットでのミーティングも行っているがそれぞれの利用者様へのケアの方針、意思統一などで終わってしまっている。休憩時間などにも出来る限りコミュニケーションを図るようにしている。	毎月1回の全員参加のミーティングを行ない、管理者に職員からの意見で、勤務体制の時間帯の変更、利用者の低床ベッドの要望も検討され運営に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回の全体ミーティングの中で、現場の状況に変化があった場合、管理者より代表者には、報告をおこなっている。職員の急な休みにも職員全員がお互い様との思いを持ち臨機応変、勤務交代なども行い協力的である。経験年数だけで現在まで昇給されてきたが、今後は、各職員の業務への取り組み方など配慮しながら検討していく方針。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前回の自己評価でも外部研修等への参加を含め職員の力量等を測りながら1年1回は全職員が外部研修参加の機会を持つ。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度は行えなかった。佐世保市のグループホーム連絡協議会に平成23年度参加出来るよう調整する。同業者同士の交流を兼ね施設見学なども計画していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状況を把握するよう、また、本人様の思いに向き合うよう努めている。話しをよく聴くように心がけている。他の施設で馴染めなくても当施設では徐々になれていき信頼関係を持つよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接では、まずご家族の状況が把握できるようゆっくり困っていることなど話を聴き、信頼関係を作る事が出来るよう努めている。入居後も、面会時、できるだけ本人の状況を伝える為に面談するようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況を確認し、その時、必要としている対応ができるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知る事が出来るよう努め、共に支えあえるような関係づくりに留意している。食事の準備、野菜作り等の時は、特にこれまでの経験から指導していただくことも多い。また、風習などについても教えて頂く事がある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や職員の思いを伝え、ご家族が不安に思っていることはないのか？など、つかめるように努力している。ご家族と職員の思いが徐々に築けるようになった。課題は、面会などが、定期的に行うことが難しいご家族へは、手紙などで近況を報告はしているが、十分とは言えない。管理者等が、ご家族への説明は行うようにし、職員にも伝達して統一するよう心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室、レストランなどへご家族の協力の下、行き続けておられる利用者様、一人ひとりの生活習慣を尊重するよう努力している。地域に暮らすなじみの知人・友人などが遊びに来られることもある。また、買い物に出かけられた時に、なじみの知人と会話を楽しまれるような場面もある。墓参りに行きたいと希望される利用者様へ家族にも協力していただき行ける様に努力していきたい。	地元の利用者が多く、馴染みの友達が遊びに来たり、近くの商店に買物にも出かけている。新しい馴染みの関係が出来た美容院からの施設訪問により整髪をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聴く機会をつくったり、相談をゆっくり聴いたり、気の合う者同士で過ごせる場面が自然と出来たり利用者様同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。又、利用者様がストレスを抱えることが少なくなるようにも注意深く見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、利用者様、ご家族の方が困らないように相談していただける事を話している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のかかわりの中で声をかけ、把握に努めるようにしている。意思疎通の困難な利用者様については、ご家族・関係者などから情報を得ながら本人様の意向に近づけるようにしている。	利用者の入居前の生活状況等を全職員が把握しており、日々の行動で様子をうかがい意向に沿うよう努めている。利用者家族から感謝の言葉をいただき職員の励みとなっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、在宅に訪問し利用者様、ご家族の方から生活歴、ライフスタイル、個性など情報収集しご本人様の全体像が描けるように努めている。又、在宅サービスを利用されておられた方は、サービス提供事業所からの情報を頂いている。入居後も、折にふれ、ご本人様、ご家族からどんな生活をされておられたのかを聴くようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らし方や、生活リズムを理解すると共に、心理面やご本人様のできる力・分かる力に注目して、利用者様全体の把握に努めている。身体的・精神的に状態が、見られたときには、そのときの状態をチェックしなおすようにしていく。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	前回の外部評価で、日常生活のチェック表の重複記載や、記録の見直しなどを指摘を受け職員で検討し、熱計表については、ご本人様の変化が分かりやすいので継続してしようすることとなった。介護計画に沿って介護記録の記載がなされているかという点では、まだ十分でない。	介護計画をたてスタッフ間での共有、モニタリングしているが評価の記録が無く、その場の話の中で取り組まれている。	管理者は自覚されているが、記録の大切さを職員全員で話し合い、取り組まれる事に期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、食事・排泄・バイタル・内服・身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉・エピソードなども記録しその場に出動していない職員も状況が描けるようにしている。勤務開始前には、記録などを確認し、最新情報を把握した上で業務につく事を徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族の状況に応じて、通院や外出時など必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が、安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員や消防、老人会の方と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族の方が希望されるかかりつけ医となっている。受診の経過、ご家族の希望なども把握して受診の支援が出来る。入居者の大半は、協力医療機関がかかりつけ医である。違いかかりつけ医への受診は、ご家族が対応されている。又、それ以外でも、ご家族の協力が得られる。	利用者はかかりつけ医が協力医であり、安心した医療が受けられている。協力歯科医が変わり現在は検討中である。職員は定期的に口腔ケアを勉強しておりサービスに繋げている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を各ユニットに配置しており、常に利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護師が勤務していない時間帯は、介護職員の記録を基に連携を取っている。また、緊急事態には、看護師に連絡を取り指示を仰ぐようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者様への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、できる限るダメージを極力防ぐ為その後も医療機関と連携を取っている。また、ご家族と情報交換しながら、回復状況でスムーズな退院支援に結び付けている。退院許可が出れば利用者様の状態把握に努め、退院の方向で検討している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた事業所の方針については、ご本人様、ご家族の方に入居相談段階から説明し、入居後も状態の変化が見られたら、ご家族の気持ちの変化やご本人様の思いに注意を払い、支援につなげている。安心して検討できるように、情報提供を行っている。	事業所として、現時点では看取りはしない方針である。医療が継続的に必要な状態になった場合は、利用者家族と話し合い連携している医療機関に紹介している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署などの協力を得て、年に1回の応急手当の勉強会を実施している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練、避難経路等の確認、消火器等の使い方、煙体験など行った。地域を巻き込んだ避難訓練の実施までは至っていないが、民生委員の方など地域の方も避難後の利用者様の安全確保等に協力して下さるとの話しを頂いている。	避難経路やライフラインなど設備が完備されている。地区の消防団も参加し自然災害も検討し、日頃からの水路の清掃に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には出来ているが、勉強会やミーティング等の折に、職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方を検討し、利用者様の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。職員相互で点検しあいながらミーティングの場で確認と改善を行っている。	接遇のケアの取り組みとして各部所のプレミ-ティングで行なっている。利用者の尊厳を損なわないよう職員間の振り返りの中、新人職員に教えられる事もある。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせて声掛けを行い、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、身振り手振りでご本人様が決められるような場面を作っている。(飲みたい物、食べたい物、やりたいことなど)。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方にはならないよう努めている。その日をどう過ごしたいのから表現される方は少ないが、夜間など職員と心ゆくまでお茶を飲みながらおしゃべりを楽しむなど、利用者様のペースに沿って、見守りながら一緒に楽しんでいる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所にくしなどを置いていつでも使用できるように準備している。朝の着替えなどは、「ご本人様の意向を聞きながら行うよう努めている。職員は、見守りや支援が必要なときに手伝っている。自己決定が困難な利用者様には、職員と一緒に考えて、ご本人様の気持ちに沿って支援するように心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は、利用者様と相談したり、問いかけたりしながら決めるようにしている。又、買い物、調理(もやし・芽積み・豆の筋取り・つわむき・牛蒡そぎ・食材を刻んだり・味見など)、片付けなども利用者様と共に行い、職員(献食者)も一緒にテーブルで楽しく食事が出来るよう雰囲気づくりも大切にしている。	毎月1日は赤飯と決めている。献立は毎日利用者の希望メニューを伺い買物に行っている。調理師が2ユニットに各1名、利用者は配膳や魚をさばいたり一緒に準備をしている。会話をしながら自分のペースで食事を楽しませている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は嗜好等も取り入れながらバランスなどにも配慮したものになっている。水分については、食事、おやつ以外の摂取時は、介護記録へ記載している。食べられない物がある場合は、別メニューを準備している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は、義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や排尿習慣を把握し、尿意の表現が困難な利用者様にも時間を見計らって、また、ご本人様の行動の変化などみられたら誘導しトイレでの排泄が出来るように支援している。入居時、リハビリパンツを使用していた方も、現在は、布パンツに尿取りパットのみで可能となった方もおられる。	パターンは把握しているが、利用者の尿意の感覚時間が長い為、2時間おきにトイレ誘導している。トイレでの排泄を支援され、改善された事例もあり利用者の自信に繋がった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容の工夫、乳製品を取り入れ自然に排便できるように努めている。また、散歩、体操などを取り入れている。下剤については、利用者様の状況によって、必要最小限調整しながら使用することもある。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯については、ご本人様の生活習慣に合わせて行うことは出来ない。入浴を拒む人に対しては、言葉掛けや入浴の順番など対応の工夫をしている。また、なじみの関係の方と一緒に入浴していただくことで、楽しく入浴していただける事もある。	週3回の入浴で地域の方から菖蒲や柚子をいただき季節が感じられる支援をしている。入浴拒否の利用者には日々の記録から職員で検討し工夫をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情などを考慮して、ゆっくり休息が取れるように支援している。就寝前に水分補給(暖かい飲み物など)なども行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたり、ご本人様の状態に変化が見られる時は、いつもよりも詳細な記録をとるようにし、看護師や医療機関との連携をとるようにしている。各個々人の服薬内容の理解、病状について等、再認識し直す機会を繰り返し設ける予定。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の得意分野で力を発揮していただけるようお願いできそうな仕事を頼んだり(掃除・洗濯物たたみ・食事の準備、片付け・縫い物など)、感謝の言葉を伝えるようにしている。ご本人様の役割・楽しみなどご家族からの情報も得ながら行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、ご本人様の気分・希望に応じて常に行うことは困難だが、季節を肌で感じてもらえるようにと外出行事などは取り入れて、ご本人様の希望にも耳を傾けながら少しでも実施できるように努めている。ご家族の、外出・外泊などへの協力も得ている。	1階は全員参加で、公共の場にドライブや買物に出かけている。福祉祭りでは文化センターに利用者の作品展示を見学したりしている。2階は利用者の状態変化があり、2回に分けての支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て小額のお金を管理されておられる方もいる。ご家族からお小遣いとして預かり、事業所が管理している方でも、外出時などは、お金を持っていただき自ら支払っていただいたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて日常的に電話をかける支援を行っている。手紙に関しても、一緒に書きましょうか？と声掛けを行うが、現在のところかかれた方は、いらっやらない。手紙や贈り物が届いた場合は、お礼の電話をかけられないか尋ねている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるような雛人形を飾ったり、七夕、クリスマス、お正月などそれぞれ工夫している。冷暖房なども必要に応じて利用しているが、季節の自然の風を取り入れるようにしており、音や光の刺激などに配慮している。	玄関を入ると利用者の家族が持参した花が飾られ、広々としたホールにはシンプルではあるが、季節に応じた飾り付けをされている。温度管理や換気にも気を使い穏やかで温かい雰囲気作りをされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、フロア、談話室、食堂などなじみの利用者様同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの椅子、棚などそばに置ける利用者様もいるが、身の回りの物品を置く事が困難な方もいる。状況によってご家族の方と話し合いながら行っている。	居室は広く和室と洋室があり、備え付けのベットや収納に十分な整理ダンスが置かれてある。個々に馴染みの家具や調度品等も持ち込まれその人らしさが伺える居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で居室までいけるように目印などを工夫している。ベットについては、安全に配慮しながら利用者様の状態に適切なベットになっているのが見直したりしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700323		
法人名	株式会社 翔里		
事業所名	グループホーム 翔里 弐番館		
所在地	〒859-5512 長崎県平戸市津吉町1051		
自己評価作成日	平成 23 年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成23年 5月 18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成 23 年 2 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時、申し送り等が終わった後、運営理念を唱和し、「職場の教養」という冊子を用いて感じたことや思いなど話し合っている。それらを意識しながら介護業務にあたっている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が日常的に来られたり、施設側から日常的に出かけて行ったりというところまでは出来ていないが、地域のスーパーに買い物に出かけたり、ドライブに出かけることはある。高齢者との交流学習の一環として毎年行っている。又、保育園からの慰問も、1ヶ所だけでなく別の保育園からも慰問していただいた。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の会合で、グループホームの事、認知症について説明を行う機会を頂いた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げた検討事項、懸案事項について次の会議で取り上げる事もあるが、一つ一つ積み上げるところまでは至っていない。会議の内容について職員には、単発的に報告しているがその内容について話し合う場などは、現在ない。平成22年度は、3回の開催のみとなった。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市町村担当者の方が見えていただいている。その場での情報交換はおこなっているが、密に連絡が取れているとは言えない。市町村担当者へ、困難事例について相談を行ったが、情報を得たり、解決には至らなかった。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で身体拘束について話し合い、理解したうえで最低限の身体拘束を行っている。しかし、利用者様の状態を常に観察しながら状態に照らし合わせて行っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について勉強会などで理解する機会が取れていない。今後、学ぶ機会を持つ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について学ぶ機会がもてていない。施設内勉強会、各部署でのミーティングなどで機会を持つようにしていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り説明を行っている。利用料金についてなどは特に詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には、時間をとって家族とのコミュニケーションを取り、要望などさりげなく聞き出すように努力はしているが意見の抽出は出来ていない。アンケート調査は行えていないが今後検討していく。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを毎月1回は行い、代表者の方針などを話された後、意見をざっばらんに話せるようにはしているが、意見は、なかなか出てこない。又、各ユニットでのミーティングも行っているがそれぞれの利用者様へのケアの方針、意思統一などで終わってしまっている。休憩時間などにも出来る限りコミュニケーションを図るようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回の全体ミーティングの中で、現場の状況に変化があった場合、管理者より代表者には、報告をおこなっている。職員の急な休みにも職員全員がお互い様との思いを持ち臨機応変、勤務交代なども行い協力的である。経験年数だけで現在まで昇給されてきたが、今後は、各職員の業務への取り組み方など配慮しながら検討していく方針。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前回の自己評価でも外部研修等への参加を含め職員の力量等を測りながら1年1回は全職員が外部研修参加の機会を持つ。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度は行えなかった。佐世保市のグループホーム連絡協議会に平成23年度参加出来るよう調整する。同業者同士の交流を兼ね施設見学なども計画していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状況を把握するよう、また、本人様の思いに向き合うよう努めている。話しをよく聴くように心がけている。他の施設で馴染めなくても当施設では徐々になれていき信頼関係を持つよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接では、まずご家族の状況が把握できるようゆっくり困っていることなど話を聴き、信頼関係を作る事が出来るよう努めている。入居後も、面会時、できるだけ本人の状況を伝える為に面談するようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況を確認し、その時、必要としている対応ができるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知る事が出来るよう努め、共に支えあえるような関係づくりに留意している。食事の準備、野菜作り等の時は、特にこれまでの経験から指導していただくことも多い。また、風習などについても教えて頂く事がある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や職員の思いを伝え、ご家族が不安に思っていることはないのか？など、つかめるように努力している。ご家族と職員の思いが徐々に築けるようになった。課題は、面会などが、定期的に行うことが難しいご家族へは、手紙などで近況を報告はしているが、十分とは言えない。管理者等が、ご家族への説明は行うようにし、職員にも伝達して統一するよう心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室、レストランなどへご家族の協力の下、行き続けておられる利用者様、一人ひとりの生活習慣を尊重するよう努力している。地域に暮らすなじみの知人・友人などが遊びに来られることもある。また、買い物に出かけられた時に、なじみの知人と会話を楽しまれるような場面もある。墓参りに行きたいと希望される利用者様へ家族にも協力していただき行ける様に努力していきたい。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聴く機会をつくったり、相談をゆっくり聴いたり、気の合う者同士で過ごせる場面が自然と出来たり利用者様同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。又、利用者様がストレスを抱えることが少なくなるようにも注意深く見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、利用者様、ご家族の方が困らないように相談していただける事を話している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のかかわりの中で声をかけ、把握に努めるようにしている。意思疎通の困難な利用者様については、ご家族・関係者などから情報を得ながら本人様の意向に近づけるようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、在宅に訪問し利用者様、ご家族の方から生活歴、ライフスタイル、個性など情報収集しご本人様の全体像が描けるように努めている。又、在宅サービスを利用しておられた方は、サービス提供事業所からの情報を頂いている。入居後も、折にふれ、ご本人様、ご家族からどんな生活をされておられたのかを聴くようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らし方や、生活リズムを理解すると共に、心理面やご本人様のできる力・分かる力に注目して、利用者様全体の把握に努めている。身体的・精神的に状態が、見られたときには、そのときの状態をチェックしなおすようにしていく。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	前回の外部評価で、日常生活のチェック表の重複記載や、記録の見直しなどを指摘を受け職員で検討し、熱計表については、ご本人様の変化が分かりやすいので継続してしようすることとなった。介護計画に沿って介護記録の記載がなされているかという点では、まだ十分でない。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、食事・排泄・バイタル・内服・身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉・エピソードなども記録しその場に出動していない職員も状況が描けるようにしている。勤務開始前には、記録などを確認し、最新情報を把握した上で業務につく事を徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族の状況に応じて、通院や外出時など必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が、安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員や消防、老人会の方と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族の方が希望されるかかりつけ医となっている。受診の経過、ご家族の希望なども把握して受診の支援が来ている。入居者の大半は、協力医療機関がかかりつけ医である。違つかかりつけ医への受診は、ご家族が対応されている。又、それ以外でも、ご家族の協力が得られる。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を各ユニットに配置しており、常に利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護師が勤務していない時間帯は、介護職員の記録を基に連携を取っている。また、緊急事態には、看護師に連絡を取り指示を仰ぐようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者様への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、できる限るダメージを極力防ぐ為その後も医療機関と連携を取っている。また、ご家族と情報交換しながら、回復状況でスムーズな退院支援に結び付けている。退院許可が出れば利用者様の状態把握に努め、退院の方向で検討している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた事業所の方針については、ご本人様、ご家族の方に入居相談段階から説明し、入居後も状態の変化が見られたら、ご家族の気持ちの変化やご本人様の思いに注意を払い、支援につなげている。安心して検討できるように、情報提供を行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署などの協力を得て、年に1回の応急手当の勉強会を実施している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練、避難経路等の確認、消火器等の使い方、煙体験など行った。地域を巻き込んだ避難訓練の実施までは至っていないが、民生委員の方など地域の方も避難後の利用者様の安全確保等に協力して下さるとの話しを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には出来ているが、勉強会やミーティング等の折に、職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方を検討し、利用者様の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。職員相互で点検しあいながらミーティングの場で確認と改善を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせて声掛けを行い、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、身振り手振りでご本人様が決められるような場面を作っている。(飲みたい物、食べたい物、やりたいことなど)。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方にはならないよう努めている。その日をどう過ごしたいのか自ら表現される方は少ないが、夜間など職員と心ゆくまでお茶を飲みながらおしゃべりを楽しむなど、利用者様のペースに沿って、見守りながら一緒に楽しんでいる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所にくしなどを置いていつでも使用できるように準備している。朝の着替えなどは、「ご本人様の意向を聞きながら行うよう努めている。職員は、見守りや支援が必要ときに手伝っている。自己決定が困難な利用者様には、職員と一緒に考えて、ご本人様の気持ちに沿って支援するように心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は、利用者様と相談したり、問いかけたりしながら決めるようにしている。又、買い物、調理(もやしの芽積み・豆の筋取り・つわむき・牛蒡そぎ・食材を刻んだり・味見など)、片付けなども利用者様と共に行い、職員(献食者)も一緒にテーブルで楽しく食事が出来るよう雰囲気づくりも大切にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は嗜好等も取り入れながらバランスなどにも配慮したものになっている。水分については、食事、おやつ以外の摂取時は、介護記録へ記載している。食べられない物がある場合は、別メニューを準備している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は、義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や排尿習慣を把握し、尿意の表現が困難な利用者様にも時間を見計らって、また、ご本人様の行動の変化などみられたら誘導しトイレでの排泄が出来るように支援している。入居時、リハビリパンツを使用していた方も、現在は、布パンツに尿取りパットのみで可能となった方もおられる。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容の工夫、乳製品を取り入れ自然に排便できるように努めている。また、散歩、体操などを取り入れている。下剤については、利用者様の状況によって、必要最小限調整しながら使用することもある。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯については、ご本人様の生活習慣に合わせて行うことは出来ていない。入浴を拒む人に対しては、言葉掛けや入浴の順番など対応の工夫をしている。また、なじみの関係の方と一緒に入浴していただくことで、楽しく入浴していただける事もある。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情などを考慮して、ゆっくり休息が取れるように支援している。就寝前に水分補給(暖かい飲み物など)なども行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたり、ご本人様の状態に変化が見られる時は、いつもよりも詳細な記録をとるようにし、看護師や医療機関との連携をとるようにしている。各個々人の服薬内容の理解、病状について等、再認識し直す機会を繰り返し設ける予定。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の得意分野で力を発揮していただけるようお願いできそうな仕事を頼んだり(掃除・洗濯物たたみ・食事の準備、片付け・縫い物など)、感謝の言葉を伝えるようにしている。ご本人様の役割・楽しみなどご家族からの情報も得ながら行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、ご本人様の気分・希望に応じて常に行うことは困難だが、季節を肌で感じてもらえるようにと外出行事などは取り入れて、ご本人様の希望にも耳を傾けながら少しでも実施できるように努めている。ご家族の、外出・外泊などへの協力も得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て小額のお金を管理されておられる方もいる。ご家族からお小遣いとして預かり、事業所が管理している方でも、外出時などは、お金を持っていただき自ら支払っていただいたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて日常的に電話をかける支援を行っている。手紙に関しても、一緒に書きましょうか？と声掛けを行うが、現在のところかかれた方は、いらっしゃらない。手紙や贈り物が届いた場合は、お礼の電話をかけられないか尋ねている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるような雛人形を飾ったり、七夕、クリスマス、お正月などそれぞれ工夫している。冷暖房なども必要に応じて利用しているが、季節の自然の風を取り入れるようにしており、音や光の刺激などに配慮している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、フロア、談話室、食堂などなじみの利用者様同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの椅子、棚などそばに置ける利用者様もいるが、身の回りの物品を置く事が困難な方もいる。状況によってご家族の方と話し合いながら行っている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で居室までいけるように目印などを工夫している。ベットについては、安全に配慮しながら利用者様の状態に適切なベットになっているのか見直したりしている。		